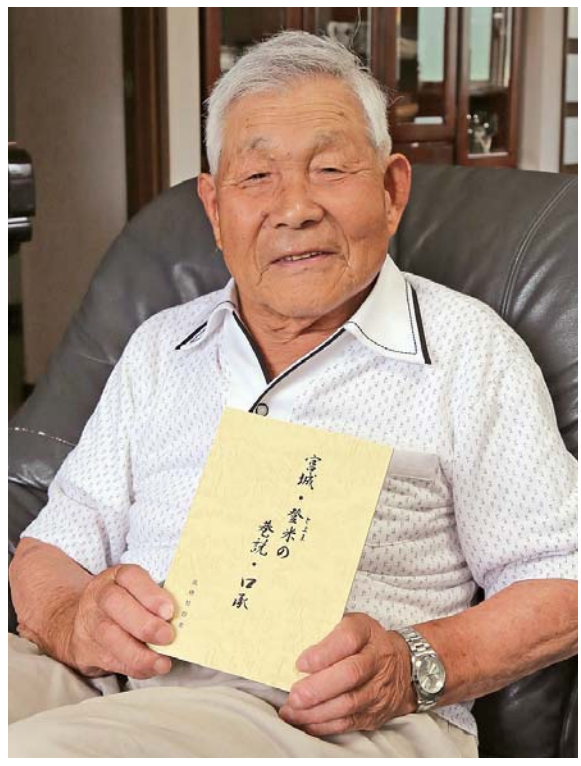


ときめき人

Tokimeki bito



この地に伝わる 風説・伝統を次代へ

登米町・荒町
高橋 哲郎さん
たかはし・てつろう
1921年生まれ 血液型/A型

Profile
登米出身・在住。20代からスレートふきの仕事を始め、今年の3月に廃業。登米能の伝承者であり、舞の指導と能面づくりなどを行っている。



▲本は、とよま観光物産センター
遠山之里(0220)52-5566
で購入可能



▲歌舞伎連獅子の、子獅子(左)と大獅子の面。制作には1カ月かかる

「この地の風説を知る人がいなくなってきた。忘れ去られないよう、残していかなければ」高橋さんは、昨年10月、主に登米町地域に伝わる風説をまとめた「宮城・登米の巷説・口承」を自費出版した。風説とは、正確な知識や情報源もなく、明確な根拠もないまま広まるうわさのこと。本には、郷土料理「はっと」の名前の由来や、登米町にある梨の木が話をする「面目無しの名木梨」など、11話を収録している。昔は風説を話す「こういう話があったと相づちを打ってくれる人がいた。今では、そういう人たちがいなくなった」と出版へのきっかけを語る。スレートぶき職人だった高橋さんは、市内はもちろん、栗原市や石巻市など各地で仕事をした。若い頃の移動手段は自転車だけ。泊りがけの仕事が

多かった。宿泊先では、お年寄りが楽しげに風説を話してくれた。「地元にもこんな伝説があるとはすごい」と興味を持ち、暇を見つけては尋ね歩いた。「この仕事ができ運がよかった」と笑顔で語る。一番思い出に残っている話は「はっと」。登場するお婆さんを50年探したがとうとう見つけれなかった。「探し始めた当時は、お婆さんも健在だったらいい」と見つけれないことを悔やむ。高橋さんは、登米能の伝承者でもあり、先人たちから受け継いだ教をまとめた文献「昔語り・とよま能」も、30年前に出版。今でも能に携わり、舞を教えたり、能面を作ったりしている。「風説も能も、この地に伝わる文化。絶やしてはいけない」と、次代へつなげる草の根の活動は、まだまだ続く。

編集後記

▼取材で対象者といろいろな話をするうちに、勉強させてもらったり、感心させられたりする。帰る頃にはすっかりファンになっていく。この1年半で、自分ばかりの人のファンになった。複数回取材に行こうものならすっかりとりこもっと多くの人のファンになりたいと思う(及川)
▼4年に1度のオリンピック。今年は逆転勝ちが多くみられ、感動がたくさんありました。今号では全国大会に出場した選手の皆さんを取材。全国大会に出場するには、常に高い目標を掲げて、想像以上につらい練習を頑張っていました。これからも応援していきたいと思えます(千葉)
▼7、8月は、市内で開催されたお祭りの取材に行ってきた。神輿やよさこい、牛の丸焼きなど、大いに盛り上がりました。夏が終わり、季節が秋に変わっても、まだまだ祭りは続きます。今度は、夏と違う秋の祭りで、「登米市」を感じてみませんか(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>